

# 第1章 市の概要

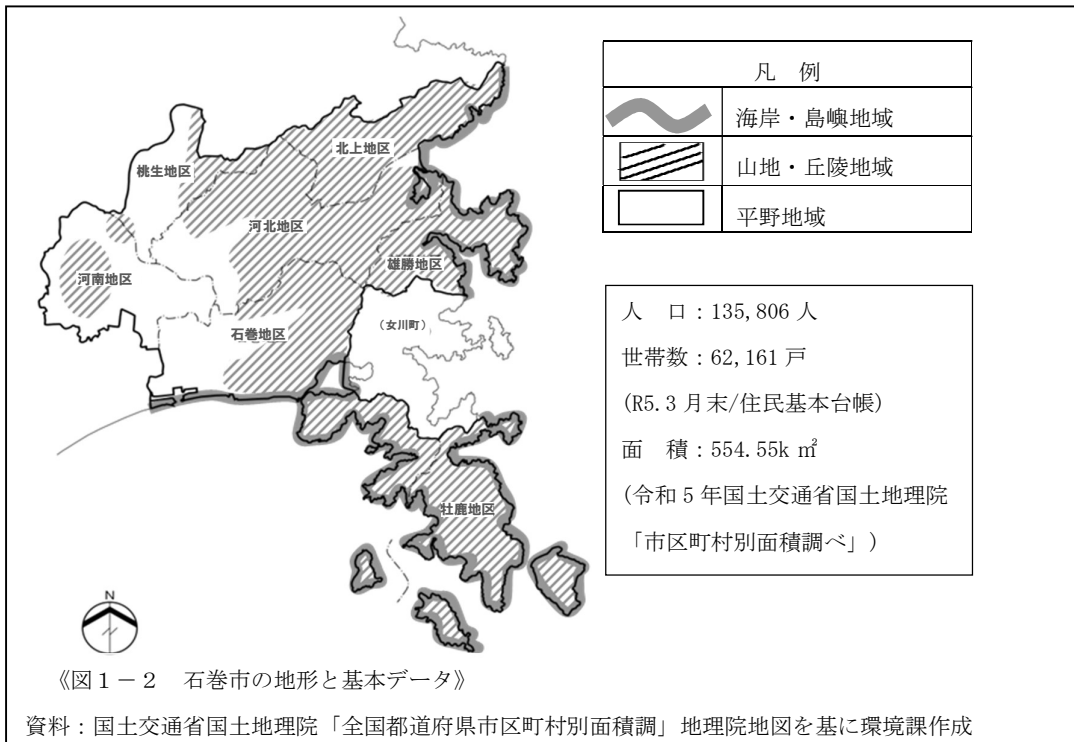
平成17年4月1日、石巻地域の1市6町は合併により、新たな石巻市として生まれ変わりました。本市は、東経141°、北緯38°に位置し、東西約35キロメートル、南北40キロメートル、面積554.55平方キロメートルの市域の中に、東部に北上山地と牡鹿半島の山々や丘陵が連なるとともに、太平洋に面してリアス式海岸が形成され、中央部や西部の平野部には田園地帯が広がっています。また、追波湾に注ぐ北上川と石巻湾に注ぐ旧北上川が流れ、流域には肥沃な穀倉地帯が形成されています。このように、本市は変化に富んだ地形を有しており、山、川、海という多様な生態系がそろうています。



《図1-1 市の花「ツツジ」(左図)  
市の木「クロマツ」(右図)》

本市を象徴する花木として、「ツツジ」と「クロマツ」をそれぞれ平成17年10月17日に制定しています。ツツジは、明るく咲いている姿が市民生活にうるおいを与えるとともに、暑さや寒さに強いことから伸びゆく本市を、クロマツは、大地にしっかりと根をおろし、太陽に向かって伸びていく姿から、本市の力強い発展を、それぞれ象徴しています。

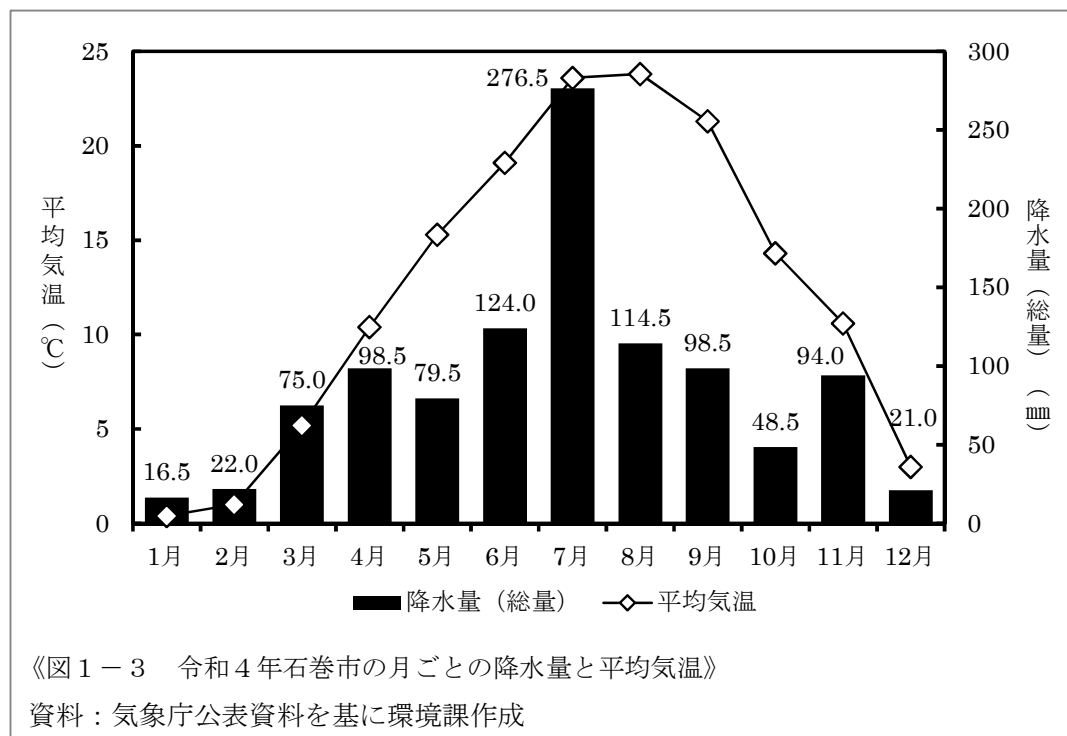
気候は、東北地方の内陸部と比較すると寒暖の差が少なく、1年を通じて比較的温暖な海洋性の気候となっています。令和4年は7月15日未明から16日昼頃にかけて宮城県全域で大雨となり、県北部では河川の氾濫等により多くの被害が発生しました。本市においても過去の記録を更新する降水があり、浸水による住宅被害が発生しました。



産業面では、製造業、卸売業、小売業など多様な産業が営まれ、地元経済と密接に関わっており、中でも太平洋沿岸部では古くから漁業や水産加工業が盛んで、パルプ・紙製品製造や木材・木製品製造及び鉄鋼業等の工場が数多く立地しています。

農業は、ササニシキやひとめぼれを中心とした稲作が営まれているほか、トマト、きゅうり、いちご、小ねぎ、ほうれんそうなどの野菜や、菊、ガーベラ、鉢もの類などの花きに加え、肉用牛生産なども行われており、多彩な複合経営農業が展開されています。

また、仙台湾の北に位置する石巻港は、紙・パルプ、飼肥料関連、木材・合板関連を中心とする産業の輸入基地、生産基地として、産業活動を支える典型的な工業港であり、東日本大震災により甚大な被害を被りましたが、令和4年1月で、石巻港湾事務所管内すべての復旧・復興事業が完了しました。石巻港における令和4年1月から同年12月までの取扱貨物量は約328万トンで、前年から27万トン（7.7%）減少しました。（資料：石巻港港湾計画概要書・ひばりの通信第57号（宮城県））。また、本市の水産物の流通拠点である水産物地方卸売市場は平成27年に全面供給開始され、令和4年の水揚数量は約10万3千トンでした（資料：魚種別・魚市場別水揚高（宮城県））。



《表1-1 令和4年の石巻市の気候に関する主要データ》

年間平均気温	12.3°C
日最高平均気温	27.2°C
日最低平均気温	-2.9°C
年間降水量	1068.50mm
日最大降水量	88.50mm

資料：気象庁公表資料を基に環境課作成